

初めての
数の学び

シュタイナー教育の低学年では、
どのように数を学んでいくのかをご紹介します。

数を初めて学ぶ日、担任の先生は子どもたちに「お父さんやお母さんが、どんなことにお金を払っているか、知っていますか？」と問いかけます。食べ物や服、家賃など様々な答えを聞きながら、こんなふうが続けます。

— 必要なものにちゃんとお金を支払うためには、お金の『分け方』を考えなくてはなりません。だから、上手に「分ける」ことのできる人を、『あの人は計算ができる』といいます。そして、そういう人たちは、喜びを分かち合うために、あるいは誰かを助けるために、贈り物用にお金をいつも少し残しておくのです—

私のクラスでは、数字を学び終えた1年生の2学期に、子どもたちはこびとの豆屋さんのお手伝いをするようになりました。この豆屋さんで働く赤・青・黄・緑の4人のこびとは、それぞれ四則の質を体現するユニークな性格で、子どもたちは話を聞くとすぐに特徴を掴み、それぞれにふさわしいポーズをやって見せました。子どもたちは、いろいろな種類の豆の数をせせせと数え、実際に分けました。

例えば、赤色こびとは、お客のサンタクロースから「愛知シュタイナー学園1年生の各家庭に、12個ずつ黒豆を届けたいが、それぞれ家族の人数が違うので、どんな風に小分けしたらいいだろう？」と相談されました。実際に黒豆を12個用意して小皿に分けていくと、3人家族なら4つずつ、4人家族なら3つずつ、6人家族なら2つずつに分ければ家族皆が同じ数になることがわかりました。他にも、子どもたちは、12個ある石を跳んで川向こうまで豆の配達をする黄色こびとや、小豆の入った12の小袋をカゴに入れて運ぶ途中うっかり落としてしまう青色こびと、おつかいに来た12人家族の小鬼の子におやつのお豆を薦める緑こびともなりました。教室に現れた川を跳んで渡ったり、カゴに残ったお手玉を数えたりと、実際に体を動かした後で、その日の学びに応じて、4人のこびとや豆の絵をノートに描きました。

私たちは、数の学びを始めるにあたり、物語を用いて子どもたちの想像力や感情に働きかけること、そして、体全体を使い、リズム感やバランス感覚を育てることを大切にしています。こうしたユニークな教授法に注目が集まりがちですが、「何のために数を学ぶのか」という生きていくうえで大切な、算数の枠にとどまらない教えがその基盤にあることが、シュタイナー教育の特徴であるように思います。

2年生担任：竹村 寧乃

*この年のクリスマス

サンタクロースから子どもたちの元へ

12個の黒豆が入った小瓶が届きましたよ！

contents

- P1 初めての数の学び
P2 [Pickup Report 01]
—3・4年生 家づくり
P3 [Pickup Report 02]
—6・7年生 日本史
教員インタビュー
P4 子育てTips
うちのおべんとう





3・4年生 大工さんとの家づくり

3・4年生担任 横地 優代



3年生、4年生の合同クラスでの家づくり。今年度は今までにない18人という大所帯での取り組みとなりました。

例年お世話になっている中村武司棟梁は、モリコロパークに「サツキとメイの家」を建てられた大工さんです。この数年はジブリパークの開園に向けて奔走されており、今年度、このクラスのためにまとまった時間を割いていただけるのはゴールデンウィークのみという忙しさ。けれども、打ち合わせにも丁寧に時間をとり、私が担任として子どもたちに体験させたいことを聞いてくださいました。

中村棟梁に私が担任として家づくりをお願いするのは2回目。「土壁を」と言えば、「今回はあちらの土を採れるといいですね」「稲わらはありませんか」「竹はいつものところで」と話が進みます。それらの担任の意向と共に、子どもたちが「家」に期待することをも合わせ、皆が満足する家が出来上がることには初回から驚かされています。連休中の騒音を抑えるため、できるだけ校庭の内側で作りたいという希望を伝えると、ゲートづくりはどうかと提案いただきました。その話を子どもたちにすると、滑り台やボルダリングなどの楽しめる要素を入れた絵を描いてきました。私は、18人が揃って入れるような家をつくることは難しいので、オープンな東屋をイメージしていたのですが、もっと寛容な彼らは自分たちだけの家にするのではなく「高いところに登れない1年生も遊べるゲートを作りたい」と口々に言うのです。

今年は弟子の松木さんが主体となって進めてくださることに。松木さんに子どもたちの意見を伝え、絵も見てくださいました。すると、屋根の上に物見台を設計して下さいました。



9歳を迎える頃、ふんわりとしたメルヘンの世界の中にいた子どもたちは少し目覚め、客観的な視点を持ち始めます。そのため、世界との一体感から切り離されたように感じ、不安に襲われ、毎晩のようにしくしくと泣いたり、逆に怒ったり、子どもによって表現は様々ではありますが、その在り様からギャングエイジと呼ばれる時期を迎えます。そのような世界との新たな関係づくりが必要となった子どもたちを支えるのが、衣食住の原体験、つまり、家づくりや稲作、畑作などの生活科の学びなのです。

「家」は彼らの体の象徴です。外の世界との境界となる屋根や壁に守られ、風雨から守られ安心して憩う場である家をつくることは、心が自分の身体の住人となり、手足に感覚を行き渡らせた地に足のついた人となる助けとなります。

子どもたちに世界の家の話をしていたときに、どの国でもそこで得られる材料を使い、その地の気候に相応しい形に作り上げていることを意識的に話してきました。校庭に建てられた昨年度までの家々を見て、「だから、木と竹と土を使ってるんだね」「石の上に柱を建てるのはそういうことか」と納得。また校舎も愛知産の木々と愛知産の瓦が使われていることも再確認しました。

家が組みあがるころ、高いところが苦手だった子も笑顔で物見台に上がることができるようになりました。18人が揃って物見台に上がると、家づくりを体験し、ひと回り成長した子どもたちの表情が輝いて見えます。入学説明会の折に「クラスの子もたちは1つの船に乗り、長い航海の苦楽を共にする仲間のように」と話すことがありますが、それを可視化したような光景でした。この輝きを導き出してくださった大工さんたちに今回も敬服です。



豊田市にて資材のヒノキを伐採
木こり: 杉野賢治さん



6・7年生 日本史の実践から

6・7年生担任 森田 里乃

1学期の日本史では、縄文時代～飛鳥時代について学びました。時代としては、自然を畏れ、呪術をしながら狩猟採集の暮らしをしていた縄文時代から、初めて自国を意識した飛鳥時代まで、となります。コロナ禍で授業の遅れは避けられず、昨年度予定していた学びなだけに、今の6・7年生の子どもたちの心に響くよう、飛鳥時代の「目覚めた意識」がハイライトになるよう授業を組み立てていきました。

歴史の授業をするにあたり、シュタイナーは「歴史は人間の意識の変遷を辿りながら学ぶ」「人類の歴史は、一人の人間の成長過程に呼応している」と示唆を残しています。今回のエポック授業*もこの視点から、各時代の人類の成長段階を意識し、またそれを味わえるよう取り組みました。その一つとして実践した「土偶作り」を紹介します。

縄文時代の土偶や土器の資料を見ていると、のびのびとした大らかさや、ユーモアを感じずにはられません。何千年もゆったりと続いた縄文時代。それは、人の成長の段階でいえば、幼児期にあたると言えるでしょう。私たちもしばし童心に戻り、この時代の人々に思いを馳せながら、また何のために土偶を作ったのか、想像しながら土偶を作りました。夏休みに入った7月末にはお泊まり会をし、乾いた土偶たちを学園の石窯で焼き上げました。1日目の午後に火起こしに取り組み、数時間火を絶やさないように燃やし続け、冷めるまで石窯内に放置し、翌日の朝食後に窯から取り出しました。一晩焼かれて色が変わり、ほんのりと温かい土偶たちを手で持つと、子どもたちの顔にも笑みが浮かびました。太古の人々は、どんな思いで燃える火を見つめたのだろう、どんな思いを込めて土偶を作ったのだろう。そんな疑問が改めて湧き上がりました。ちなみに、火起こしには舞錐式の火起こし機を使いました。暑期中、奮励し、何度も“火種”ができたのですが、残念ながら“着火”まで至らず。最後は一本のマッチのお世話になり、火を起こすことの大変さと、火のありがたみを改めて実感した体験となりました。

また、県内の「あいち朝日遺跡」へ社会見学に行った際には、丁寧な解説と共に様々な体験もさせていただきました。見学の翌日からさっそく壁新聞にまとめました。実際に見聞したことを、読み手に分かりやすく文章やイラストで表現しようと工夫を凝らした、楽しい新聞となりました。

今後も、知識や暗記に偏らず、子どもたちの心が動く授業の実践に取り組んでいきたいです。



あいち朝日遺跡ミュージアムにて

クラスみんなでまとめた壁新聞



教員インタビュー

ほかの学びと
繋がりがあいながら
母国語を習得するように学ぶ

TEACHER
INTERVIEW 02

中村 和加子先生

英語専科教員。岐阜県公立中学校で学級担任、英語科教員として10年間勤務。わが子のやまと保育園入園を機にシュタイナー教育に出会い、その後事務、保育補助として10数年間勤務。2015年より本学園教員。今年度は2～8年生の授業を担う。

— シュタイナー学校での英語教育の特徴は何ですか。

教師の模倣を通して、実際の場面で言葉に触れる体験を重ねることで、幼児が母国語を習得するように学びます。訳や説明によって頭から概念を入れるのではなく、手足を動かして言語のリズムや音に浸ります。季節感のあるものや身近な物を題材とし、表情、声のトーン、身ぶり手振りなどを手がかりに想像力を働かせることで、無理なく音や意味を理解し、身体に沁み込ませていきます。また、エポック授業*の学びやもう一つの外国語の韓国語と有機的に繋がりが 있습니다。外国語を学ぶことで、多様な文化や価値観を受け入れる柔軟な感性や広い視野を養うことを目的としています。

— 有機的に繋がらう授業とはどのようなものですか。

音声が目覚める4年生で文字を導入しますが、ちょうど家づくりの学びの時期にあたります。アルファベットは家の形から「H」を浮かび上がらせることから始まります。同時に大工さんの詩、歌、ゲームも取り入れる、といった具合です。

— 中村先生は授業の中でどのようなことを大切にされていますか。

子どもたちがいかに心を動かして、生き生きと体験を楽しんでいるか、という視点で子どもをよく観ることです。ウクライナ民話の「てぶくる」を扱った時は、特大の手袋を作り、動物になって中に順に入っていく劇遊びをしました。子どもたちがその役になりきって嬉々として演じる姿がとても印象的でした。子どもの学ぶ意欲を引き出し、苦手意識を減らす工夫も必要です。子どもにふさわしい学びの場を心を込めて整え、模倣したいと思える大人であるよう、そして、その子を丸ごと受け入れられる教師を目指して修養に励んでいます。

*エポック授業：すべての学年の1時間目に毎日行われる105分の授業で、国語、算数、理科、社会にあたる教科を3～4週間にわたって集中して学ぶものです。

子育て

Tips

工藤 千秋 先生



2009年から10年間韓国のシュタイナー学校で日本語教師を務める。2020年より当学園職員。歯科衛生士。子どもの健康管理全般を担当する。小中等部の韓国語、運動などの授業を受け持つ。幼少期からバレエを始め、いろいろな分野の舞踊、ダンスに関わっている。

【連載】幼児期の体づくり

①睡眠

幼児期、特に入学前の子どもの体づくりに一番大切なこと… 皆さんは何だと思いますか？ 最近は指導者の指示の下でいろいろな運動している小さな子どもたちを見かける機会があります。でも、実は成長の段階で「まだ早い」事がたくさんあるんですよ。なんにでも順番があります。幼児期の体づくりで一番大切なこと、それは「生活のリズム」です。クラブや施設で決められた動きや真似をさせなくても、お家での生活リズムを作ってあげることが大切です。学園で夜8時に寝ることを宿題にしているのも、そんな理由からです。国や地域によって多少の誤差はありますが、世界中にあるシュタイナー学校の1年生の宿題なんですよ。

昔から「よく寝て、よく遊び、よく食べよう」という言葉があります。耳にしたことはありませんか？ 皆さんのお家ではいかがですか？ 体づくり、いわゆる成長期の子どもが健康であるために必要な3大要素は「睡眠」「運動」「食事」です。まだまだ未完全な体の機能を年齢にあった成長をさせていくためには、お家でこの3つの要素をしっかり守ってあげることが一番大切です。その中で一番大切なのが「睡眠」です。「寝る子は育つ」という言葉もあるように成長ホルモンが十分に出来る環境を親御さんが作ってあげることが子どもの体づくりのための最も大切な仕事です。お金を使わなくていいのです。

この時期にたくさんの成長ホルモンが分泌されないと心と身体に大きな影響を及ぼします。子どもが成長するにつれていろんな形で影響が出てきます。病気やケガに負けない体を作るためには、まず決まった時間に眠れる環境をご家庭で作ってあげましょう。そうすることで、子どもたちは自分の体に必要な運動を自発的に行うことができる健康な体を手に入れていきます。

幼児期の体づくりに必要な運動については、また次回お話ししたいと思います。



公開イベントのご案内

どなたでもお気軽にご参加ください

2022年度

秋祭り 予約不要

2022年10月9日(日)
予備日 10月16日(日)

ワークショップ・演奏・ノート展示・手作り品販売など学園の雰囲気を味わっていただけるイベントを企画しています。ちいさなお子さんから大人の方までお気軽にご参加ください。



※各イベントの日程・内容等は新型コロナウイルスの感染状況により変更が生じる場合がございます。詳しい開催時間等は公式Webサイトの最新情報をご覧ください。 ※写真は過去のイベント時に撮影したものです。

見学会 予約不要

2022年11月26日(土)

教室や児童生徒のノート、作品の展示をご覧いただけます。(入退場自由) 保護者、生徒による食品・手仕事品、書籍等の販売も行います。



Webサイト・SNSで最新情報をご確認ください

隣接したQRコードを紙などで隠して読み取ってください。



公式Webサイト



オフィシャルブログ



Instagram



facebook



公式LINE

ニュースレターについて

愛知県で唯一の全日制シュタイナー学校「愛知シュタイナー学園」による発行です。教員と保護者の協力のもと、執筆からデザインまでおこなっています。子どもたちの学びと教員のまなざし、保護者の想いを四季折々に綴ります。

認定NPO法人
愛知シュタイナー学園 初・中・高等部
〒470-0115 日進市折戸町笠寺山42-13
Tel&Fax: 0561-76-3713
HP: <http://aichi-steiner.org>
E-Mail: aichisteinerschool@nifty.com

アクセス



毎日のことだから...

うちのうち
教えて
日々のお弁当

うちの楽ちん弁当大公開!



冷凍枝豆
スーパーのお稲荷さん
ミニトマト

必殺! 詰めるだけ弁当。



息子が詰めたそばろ弁当



前日の残り物つめただけ弁当



夕飯のポテラサでサンドイッチ



祖父が作ったカレーの残りをもらってきて...

スープジャーにカレー弁当



ワカメごはんにおまかせ弁当



焼うどん!



ご飯を炊かないので楽ちん!

冷やご飯で作るオムライス弁当

学童指導員さん募集



詳しくはWebサイトをご覧ください

- 大人として子どもの前に立つ自覚を持ち、自らも学び成長したいと願う方
- 子どもの育つ環境のために、シュタイナー教育を理解し保護者や教員と共にたらくことができる方



Webサイト・SNSで最新情報をご確認ください

隣接したQRコードを紙などで隠して読み取ってください。



公式Webサイト



オフィシャルブログ



Instagram



facebook



公式LINE

ニュースレターについて

愛知県で唯一の全日制シュタイナー学校「愛知シュタイナー学園」による発行です。教員と保護者の協力のもと、執筆からデザインまでおこなっています。子どもたちの学びと教員のまなざし、保護者の想いを四季折々に綴ります。

認定NPO法人
愛知シュタイナー学園 初・中・高等部
〒470-0115 日進市折戸町笠寺山42-13
Tel&Fax: 0561-76-3713
HP: <http://aichi-steiner.org>
E-Mail: aichisteinerschool@nifty.com

アクセス

